

1 ニーズ調査の実施概要について

(1) 調査目的

- 「第三期小樽市子ども・子育て支援事業計画」の策定に当たり、教育・保育事業及び子育て支援事業の「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握し、需要量の見込みなどを算定する基礎資料とするために実施。

(2) 調査対象

- 小学校就学前児童の保護者（令和5年11月1日時点） 2,267件

(3) 調査方法

- WEBアンケートにより実施。調査期間は、令和5年12月1日～12月24日

(4) 回収結果

	配付数	回収数	回収率
就学前の児童がいる全世帯	2,267	970	42.8%
(参考) 平成30年11月調査時	2,000	890	44.5%

2 ニーズ調査結果報告書について

(1) 国の基本指針に沿った設問【2ページ～69ページ】

- 需要量の見込みなどを算定するための基礎となる設問で、全26問あり、国の基本指針に沿った内容となっている。この回答結果をもとに国の手引きで示された算出方法により、需要量の見込みなどを算出する。

(2) 市の独自設問【70ページ～74ページ】

- 今回のニーズ調査に合わせ設定した、市の独自設問。
- 理想とする子どもの人数（問27）では、前回同様に1人という回答は少なく、2人若しくは3人という回答が多かったが、実際の兄弟の人数（3ページの問3）は、1人が最も多く、理想の人数と実際の人数にはギャップが生じている。
- 理想の人数よりも少ない理由（問28）としては、前回同様に「子育てや教育にかかる費用が高い」という回答が一番多く、少子化対策に向けて重要だと思うサポートでも、「結婚や出産、子育てがしやすい税制や社会保障の充実」、「子育てに係る経済的な支援」という回答が多かった。

(3) 自由意見【75ページ～79ページ】

- 「本市の子育て支援の取組について」の自由意見で、大きく5分類に分けて集約。
- 個別の意見で最も多かったのは、「②生活環境に関する意見」にある「遊び場について（公園・屋内遊戯場など）」で105件あった。これは、過去の調査時においても多くの意見が寄せられており、回を重ねるごとにその声は大きくなっている。また、この分類では特徴的な意見として、「産科・小児科・小児救急の充実について」が32件あった。
- 5分類のうち、「①行政の子育て支援サービスに関する意見」が最も多かったが、その中でも「子育てに係る負担軽減や経済的支援について」が60件と一番多く、社会情勢を反映した切実な御意見が多く寄せられる結果となった。